

COVAXワクチン・サミット（令和3年6月2日）

総理閉会挨拶

御出席の皆様、今回のサミットの成果として、皆様からの力強いコミットメントと寛大な支援の表明により、目標の83億ドルを大きく超える額を確保することができました。これにより、少なくとも「18億回、途上国の人口30%分」を確保するという目標が達成されることになりました。

これは、世界全体での「ワクチンへの公平なアクセス」を確保するための、極めて大きな、そして意味のある前進です。サミットの共催者として、協力していただいた各国、機関の皆様にご心より感謝を申し上げます。

今回のサミットでは、新興国や民間企業を含め、新たなドナーをお迎えすることもでき、国際保健分野で協力するパートナーの輪が大きく広がりつつあることを大変嬉しく思います。

しかしながら、「ワクチンへの公平なアクセス」を更に進めるには、持続可能な財政支援、生産能力の拡張など、課題は残されています。

「ACTアクセラレータ」を通じた、治療、診断、保健システムの強化を含む包括的な取組も重要です。

今後も、更に多くのコミットメントがなされることを期待するとともに、我が国としても、引き続き、「ワクチンへの公平なアクセス」の確保に全力で取り組んでまいります。

同時に、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成に向けた取組として、我が国は、栄養、水、衛生など、幅広い分野での健康安全保障のための支援も重視しており、本年12月には、

「東京栄養サミット」を開催し、世界の人々の栄養改善を推進してまいります。

今回の感染症の危機を克服し、将来の健康危機への備えを整えること、そして、世界を「より良い回復」に導いていくこと、こ

れらは、私たちの重要な責務であります。

我が国は、多国間主義を重視しながら、皆様と共に、これからも、保健分野における国際的な取組をリードしていく決意です。本日は、誠にありがとうございました。